

## 2020 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [ 船橋市立葛飾中学校 ] 担当教諭名 [ 杉田 茜 ] ( 美術部 10名 )

相手国・地域 [ インドネシア ]

海外学校名 [ SMP Islam Al Azhar 9 ] 担当教諭名 [ Dian Novrini ]

### ■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	美術部	コロナウイルスが社会に与えた影響について	10
	美術部	テーマ設定(どんな思いをモチーフに込めるか)	10
	美術部	壁画制作	20

### ■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	つながる ～幸せのヒーロー～
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	1 つながる ～異国との交流はコロナでも途絶えない～ 2 感謝 ～コロナウイルスのために戦っているヒーローに感謝～ 3 幸せ ～stay home しながらでもオンラインで世界は広がる幸せ～



### ■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
コロナウイルス感染拡大という世界共通の課題に対して、自分たちでできることを精一杯考え、壁画に表すことで、国や文化が違っても同じ志を持った仲間との絆が芽生えた。また、様々な考えを受け入れながら、より良い未来を自らの手で創ろうとする主体性が生まれた。	日本側でリードできる場面がもっとあったように感じた。(コロナウイルスが社会に与えた影響を紹介しあう活動や絵のテーマ決めなど) また、オンラインミーティングが1度だけしかできなかったのも、早めに計画をして、もっと積極的に交流をしたかった。

### ■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
相手の国の文化やコロナの状況を知ろうと自ら調べ、世界にはたくさんの方がいて様々な考えがあることに気づくことができた。また、改めて自分の国の事について紹介することで、日本の良さに改めて気づくことができた。ICT スキルとリテラシーの向上が見られた。仲間と協働する力と、リーダーシップが身に付いた。	学校の中の活動で終わらせず、インドネシアの学校と交流しながら共通のテーマで制作を進める中で、共通言語としての英語力の必要性を強く感じた。さらに、学習全体のリーダーシップを今後はもっと取っていかねばならないと感じた。この活動を地域に発信し、グローバルな感覚をより多くの生徒や他の教員にも広げたい。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	6月 7月	インドネシアについての調べ学習、ポスター制作、学校紹介、自己紹介カードの作成をし、フォーラムにアップした。	インドネシアという国に初めて出会う生徒も興味をもって調べ学習ができ、理解が深まった。相手校から自己紹介カードが届くと、とても嬉しそうな反応で、意欲が高まった。	部活動
共有 テーマ学習	8月 9月	コロナウイルスによる学校生活の変化、生活様式の変化等について整理し、日本とインドネシアではどう違いがあるかパワーポイントを作成し、伝え合った。	手描きのポスターが得意な生徒と PCでの作業が得意な生徒で、それぞれ得意分野を生かしながら、「思いを伝える工夫」ができたことが生徒の自信につながった。	部活動
融合 メッセージ作成	9月 10月	アフターコロナの世界がどういう未来になったらいいか、ミーティングを重ねアイデアを考えた。考えたアイデアをフォーラムや ZOOM を使って伝え合った。	初めての ZOOM 会議で通訳を交えながらも、自分たちの考えたアイデアを伝えられたことに充実感を感じることができた。相手校の生徒の思いももっと聞きたいという気持ちになった。	部活動
創造 壁画制作	11月 12月	キーワードをオリジナルのキャラクターと虹のイメージでつなぎ、構図を決め、コロナウイルス感染予防対策をしながら、壁画の制作を行った。	2度目の ZOOM での会議を予定していたが、時間がうまく合わなかったことが残念だった。それに代えてフォーラムを使って、動画で壁画の完成イメージを伝えることができた。	部活動
評価 振り返り 自己評価	1月 2月	活動の振り返りを行い、ワードとパワーポイントを使って活動報告書の作成をした。成果発表会を行い、伝える力をさらに育みたい。	フォーラムで相手校から壁画が届いた知らせが届いた際、安堵すると共にコロナ禍であっても、世界の動きについて実感することができた。	部活動

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	5	国が違う同世代の生徒と交流を深めることで、異文化に対する理解が深まった。また、日本の紹介をすることで、改めて日本の良さに気づけた生徒が多かった。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	4	インドネシアの生徒の考えをもっと引き出す工夫が必要だった。壁画のアイデアを持ち寄り、共有し、ひとつの大きな絵にするプロセスではお互いの意見を尊重しながら進めることができた。
主体的に考え行動する力	5	初めの頃は教員の指示を仰いでいた生徒が、学習が進んでいくごとに、次に何をすれば良いか先を見て行動し自分たちがどうしていきたいかを提案しながら自ら動くことができるようになった。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	4	オンラインミーティングが 1 回しか行えなかったため、早めに計画してお互いのアイデアを共有する機会をフォーラム以外でも設けるべきだった。自分たちが考えたアイデアを絵やパワーポイント等で伝える工夫やまとめる工夫はできた。
思いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	美術部の生徒の活動だったため、自分の得意分野を生かしながらコロナ後の未来を絵や言葉にし、アイデアを考え表現し伝えることは良くできていた。双方向のコミュニケーションをもっと充実させたい。